令和７年度
大府市
水道の決算

～水道の決算をわかりやすく解説します～



大府市マスコットキャラクター「おぶちゃん」

水道バージョン

大 府 市 水 道 事 業

○はじめに

大府市の水道事業は、公営企業会計として、安心で安全な水を安定してお届けするため、施設の維持管理や更新を計画的に進めながら、独立採算制のもとで効率的な運営に努めています。使用者のみなさまにお支払いいただいた水道料金を主な財源として経営していることから、収支の状況や将来の見通しをわかりやすくお伝えすることは、重要な役割の一つだと考えています。

しかし、公営企業会計の決算書は専門的な内容も多く、普段なじみのない方にとっては理解しにくい面があります。そこで本冊子では、決算書のポイントや水道事業の現状などをできるだけ簡潔にまとめ、市民の皆さまに水道事業の経営状況を身近に感じていただけるよう工夫しています。

これからも、持続可能な水道経営の実現に向けて、情報公開の充実と効率的な事業運営に取り組んでまいります。

目　次

１．決算ってなに？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．水道事業の会計の仕組み　～収益的収支と資本的収支～・・・・・・・・・・・１
３．収益的収支の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　　コラム①　減価償却費と長期前受金戻入ってなに？
４．資本的収支の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
　　コラム②　補てん財源ってなに？
５．水道事業の経営状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
【巻末】財務諸表の解説①～③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

１．決算ってなに？

水道事業が施設の維持管理や整備を行うためには、どんなことにお金を使うのかあらかじめ決めておく必要があります。そこで、水道料金などの入ってくるお金（収入）とそのお金の使いみち（支出）の計画を毎年度３月に「予算」としてまとめ、市議会の承認を得ています。この「予算」に対して、１年間の入ってきたお金（収入）とお金の使いみち（支出）の結果をまとめ、毎年度９月にみなさまに報告するものが、「決算」です。

２．水道事業の会計の仕組み

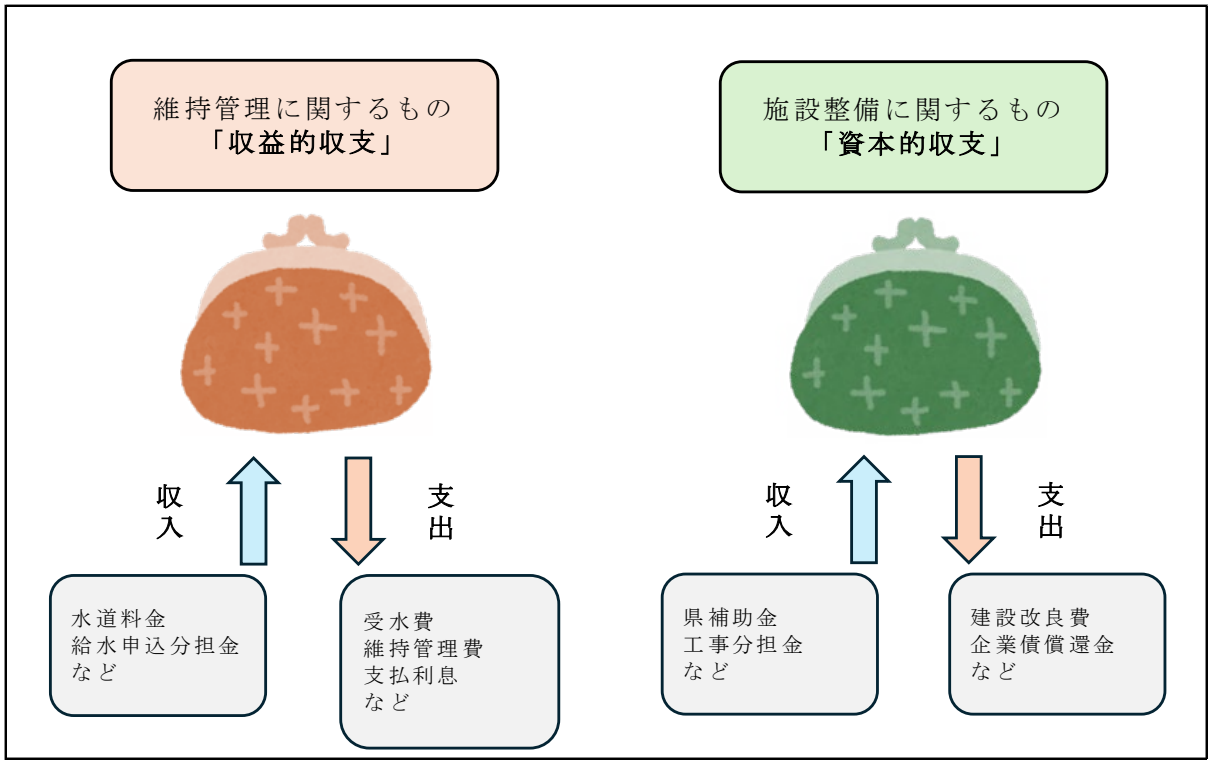
決算の解説の前に、水道事業の会計について、説明します。

大府市の水道事業は公営企業会計を採用しており。公営企業会計では、「**収益的収支**」と「**資本的収支**」の２つの収支（お財布）に分けて管理をしています。

「**収益的収支**」は、みなさまが支払った水道料金などの収入をもとに、愛知県営水道からの購入した水の費用（受水費）や水道施設の維持管理にかかわる支出を管理するお財布です。維持管理にかかわる支出とは、水道施設の電気代、施設の修繕費などの費用（維持管理費）といった日常の業務活動でかかる費用のことを言います。

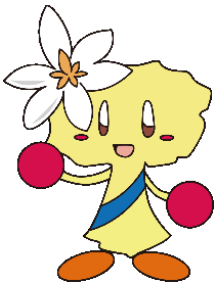
「**資本的収支**」は、県から交付される補助金などの収入と、水道施設の建設・改築等（建設改良費）や施設の建設・改築の財源として借り入れたお金の返済金（企業債償還金）の費用があり、主に施設の整備をするお財布です。





水道事業の２つのお財布を家計に置き換えると、「**収益的収支**」は、給料をもとに食費、光熱費などの日々の生活費を支払うお財布で、「**資本的収支**」は、県の援助金やローンの借入金をもとに、家の新築・改築をし、ローンの返済をするお財布となります。

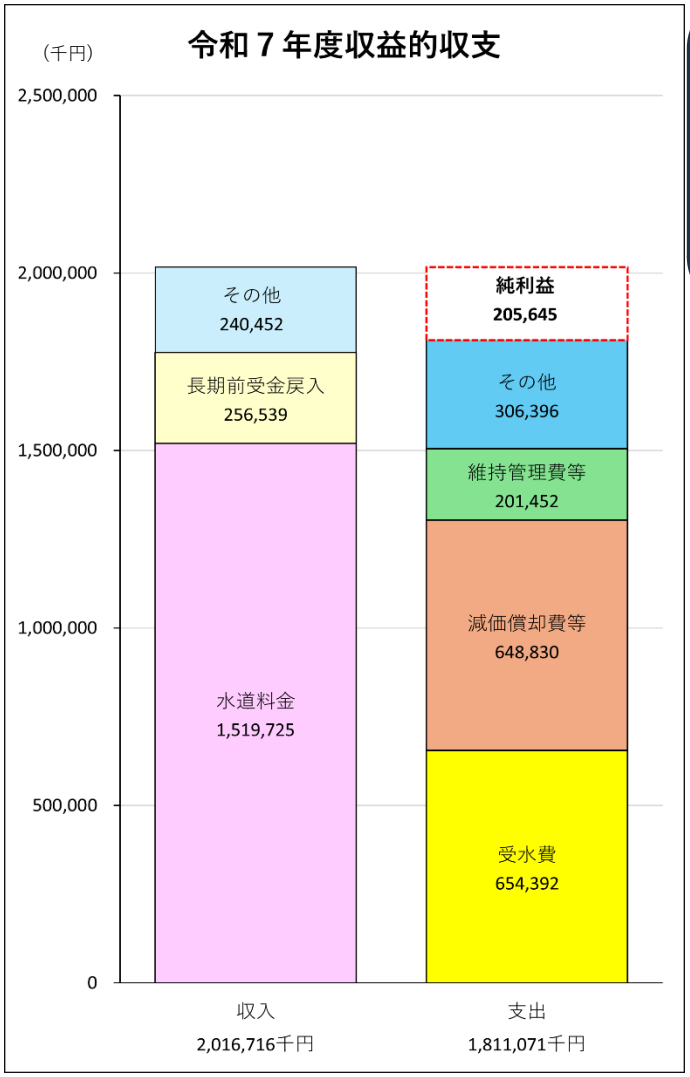
ここまで、「決算」と水道事業の会計の仕組みについて、解説してきました。
次に、水道事業の令和７年度決算について、解説していきます。



３．収益的収支の状況

水道事業の令和７年度決算における収益的収支の状況は、水道料金をはじめとする収入が 20 億 1,671 万円となり、対して支出は、受水費をはじめとして 18 億 1,107 万円となりました。収益的収支全体では、2 億 564 万円の黒字（純利益）となりました。

収入、支出の項目の内訳は、収入において、一番金額が大きいものは、「水道料金」で、収入の約 80%にあたります。一方、支出は、「受水費」が一番大きく、支出の約 40%も占めています。次いで、「減価償却費等」となっています。





コラム①
減価償却費と長期前受金戻入ってなに？

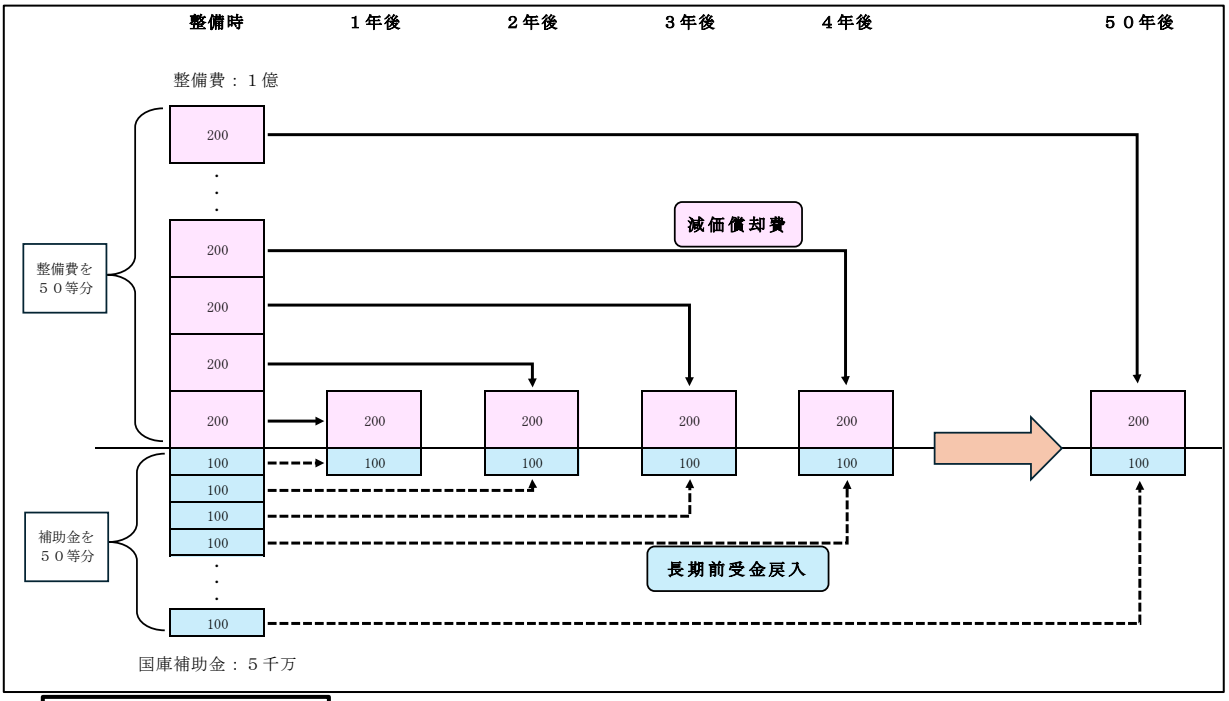
支出の減価償却費や収入の長期前受金戻入とは、どういった費用・収入なのでしょうか？

減価償却費とは、時間がたつことによる施設や水道管などの資産の価値が減少した分を少しずつ費用に計上するものです。身近な例として、新車を購入して、数年後に売却する場合、買った時と同じ額ではなく、経年による価値が減少した価格になります。この減少額が減価償却費にあたります。

一方、長期前受金戻入は、施設や水道管などの資産の建設のために収入した国庫補助金などを少しずつ収入に計上するものです。減価償却費の収入版と言えます。

では、具体的な例をあげて、減価償却費と長期前受金戻入を見ていきます。

ある年に、50 年使用できる水道施設を１億円で整備し、この施設の建設のために国庫補助金 5,000 万円の収入があった場合の減価償却費と長期前受金戻入のイメージは下の図のようになります。



コラム①のまとめ

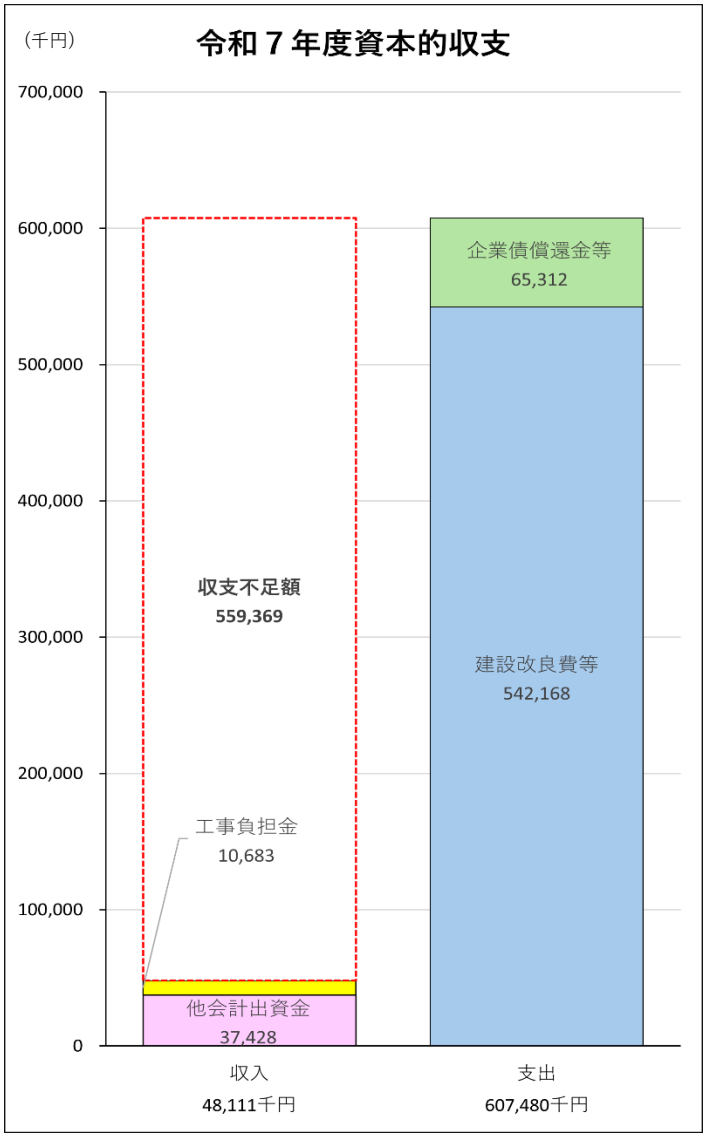
・減価償却費は、整備にかかった費用を整備した年に全額費用とするのではなく、施設が使用できる年数に分けて、少しずつ費用として計上していきます。例の場合では、毎年 200 万円ずつ費用計上されます。

・長期前受金戻入は、減価償却費の収入版で、今後何十年と使用する水道施設建設のための国庫補助金などの収入を、施設が使用できる年数に分けて、少しずつ収入として計上していきます。例では、毎年 100 万円ずつ収益化されています。

４．資本的収支の状況

水道事業の令和７年度決算における資本的収支の状況は、収入が 4,811 万円となり、対して支出は、建設改良費等をはじめとして 6 億 748 万円となりました。資本的収支全体では、収入に対して支出が大きく、5 億 5,937 万円の収支不足額が発生し、不足分は、補てん財源で補てんしました。

収入、支出の項目の内訳は、収入については、県から交付される補助金や消防関係の工事負担金があります。一方、支出は施設の建設・改築の費用（建設改良費等）や、借り入れたお金の返済金（企業債償還金）があります。



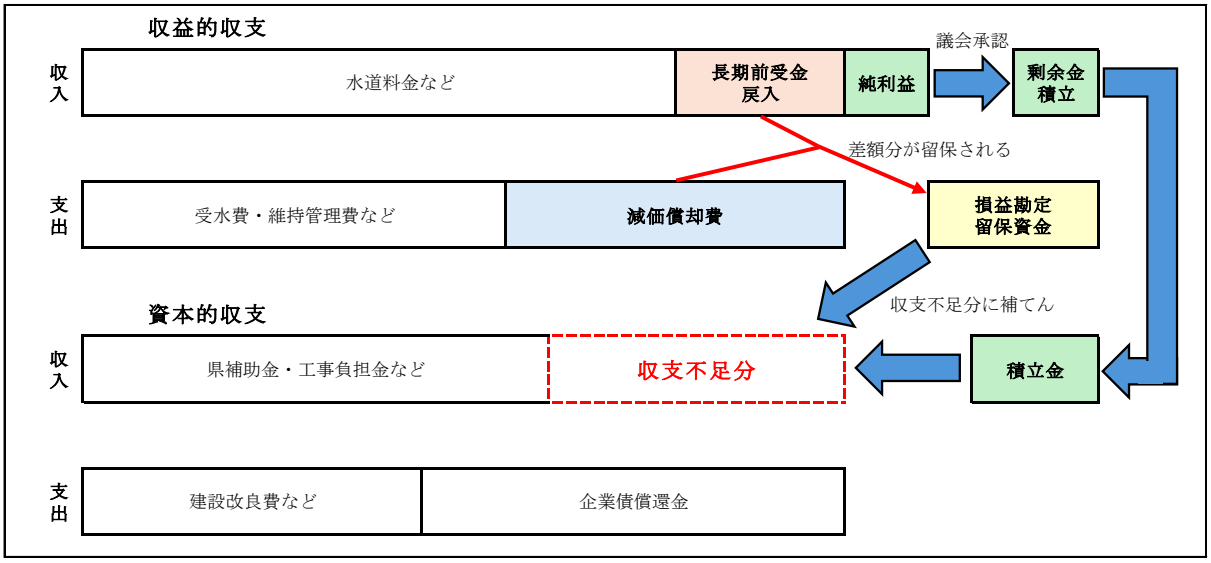


コラム②
補てん財源ってなに？

資本的収支は、施設の建設・改築を行うお財布であり、基本的に施設の建設・改築の費用より、その財源となる収入のほうが少なくなります。この収入が不足する分は、別のお金で補てんする必要があり、そのお金は「**補てん財源**」と呼ばれています。

「**補てん財源**」は、先ほどの収益的収支に出てきた「減価償却費」・「長期前受金戻入」と「純利益」が関わっています。コラム①で減価償却費と長期前受金戻入は、施設の整備にかかった費用や収入を、整備した年に全額計上するのではなく、使用できる年数に分けて、費用と収入に計上すると説明しました。ここで、実際の現金の動きに注目してみると、整備した年には、費用・収入ともに現金の出入りがありますが、その後の減価償却費、長期前受金戻入は、実際には現金の出入りがない帳簿上の費用や収入です。そのため、その差額分が留保資金として手元に残ります。この留保資金は、「**損益勘定留保資金**」と呼ばれ、補てん財源として使用することができます。

また、経営活動により生じた「純利益」は、利益剰余金として、議会の承認を得ることで、目的別に積立金を積み立てることができます。この純利益から生じた「**積立金**」も補てん財源として使用することができます。この「**補てん財源**」の仕組みを図にすると下図のようになります。



コラム②のまとめ

・補てん財源は、資本的収支の支出に対して、収入の不足分を補うお金のことです。
・補てん財源には、収益的収支の減価償却費と長期前受金戻入のような実際に現金の出入りがない費用と収入の差額を留保した「損益勘定留保資金」と、収益的収支の純利益を積み立てた「積立金」などがあります。

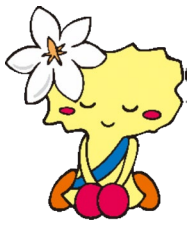
５．水道事業の経営状況

水道事業の経営状況は、「３．収益的収支の状況」で見てきたとおり、純利益（黒字）を計上しています。しかし、純利益を計上しているから、安泰な経営状況というわけではありません。純利益を計上していても、手元にある現金が少ないと、資金繰りに苦労し、円滑に事業を進めることができません。そこで、経営状況を多角的に判断・分析するために、「**財務諸表**」という決算書類を作成し、報告しています。「**財務諸表**」には、「**損益計算書**」、「**貸借対照表**」、「**キャッシュ・フロー計算書**」などがあります。各財務諸表の内容や、そこからわかることは、下の表のようになります。各財務諸表の解説は、巻末に掲載していますので、ご覧ください。

	書類の内容	書類からわかること
損益計算書	１年間のすべての収益と すべての費用	１年間の経営活動により、 どれくらい儲かったのか
貸借対照表	企業が保有するすべての資産、 負債及び資本	水道管などの資産や借金が どれくらいあるのか
キャッシュ・フロー 計算書	現金がどれくらいあるのか、 現金の増減とその内容	１年間の現金の流れや 現金を増やすことができたのか

水道事業は、現状、健全経営を維持できていますが、今後、生活スタイルの変化や節水機器の普及等により水の使用量が減少していくことが見込まれることに加え、愛知県営水道料金の値上げ、物価高騰による電気料金や企業債利息などの維持費の増加、共和・長草配水場等の更新工事や管路の耐震化及び老朽管の更新工事に伴う建設改良費の増加などにより支出の増大が見込まれています。

そのためにもこれまで行っている収入の安定確保や経費削減の方策を今まで以上に推進し、水道施設掲載広告など保有資産を活用して水道料金以外の財源を確保することや、料金・会計システムの共同化によるランニングコストの削減、ウォーターＰＰＰを始めとした民間資金・ノウハウの活用の検討、施設更新工事の平準化や工事発注方式の見直しによる工事費削減などを通じて、経営基盤の一層の強化に継続して取り組んでいく予定であります。



財務諸表の解説①　～損益計算書～

損益計算書は、ある一定期間における企業の経営成績を明らかにするために、その期間中に得たすべての収益と、これに対応するすべての費用を記載し、その結果の損益を記載した報告書です。

○損益計算書からわかること

損益計算書からは、企業がどのような経営活動によって、どれだけの成果があったのかを知るとともに、それに基づき過去の経営を分析し、また、将来の方針を立てるのに役立てられま

◎注目ポイントは、３つの損益！

損益は次の式で計算します。

損益　＝　収益　－　費用

損益がプラス　→　利益

損益がマイナス　→　損失

①　営業損益
本業による損益がわかる！
水道事業の本業は、安心安全な水道水を供給することです。そのための費用や、みなさまからいただいた水道料金などの主たる営業活動の結果を示しています。

②　経常損益
経営活動による損益がわかる！
①の営業損益に加えて、一般会計からの補助金収入や、企業債利息の支払い等の資金調達に関する損益の結果を示しています。

③　当年度純利益（純損益）
最終的な損益がわかる！
１年間のすべての損益の結果を示しています。

令和７年度　大府市水道事業損益計算書
（令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで）

（単位：円）

1　営業収益				
(1) 給水収益	1,519,725,230			
(2) その他営業収益	100,107,310	1,619,832,540	(ア)	
2　営業費用				
(1) 配水及び給水費	970,053,089			
(2) 総係費	33,636,638			
(3) 業務費	127,187,982			
(4) 減価償却費	648,830,351			
(5) 資産消耗費	11,352,520	1,791,060,580	(イ)	
営　業　損　失			171,228,040	(ウ)=(ア)-(イ)
3　営業外収益				
(1) 受取利息及び配当金	16,019,863			
(2) 雑収益	7,271,958			
(3) 長期前受金戻入	256,538,676			
(4) 他会計補助金	117,053,082	396,883,579	(エ)	
4　営業外費用				
(1) 支払利息	7,691,375			
(2) 雑支出	11,852,676	19,544,051	(オ)	377,339,528 (カ)=(エ)-(オ)
経　常　利　益			206,111,488	(キ)=(ウ)+(カ)
5　特別利益				
(1) 過年度損益修正益	0	0	(ク)	
6　特別損失				
(1) 過年度損益修正損	466,427	466,427	(ケ)	△ 466,427 (コ)=(ク)-(ケ)
当年度純利益			205,645,061	(サ)=(キ)+(コ)
その他未処分利益剰余金変動額			68,280,591	
当年度未処分利益剰余金			273,925,652	

財務諸表の解説②　～貸借対照表～

貸借対照表は、企業の財政状態を明らかにするため、年度末（決算日）時点に企業が保有するすべての資産、負債及び資本を表示する報告書です。

○貸借対照表からわかること

表の左側【資産の部】からは、事業を行うために保有している資産の残高がわかります。

表の右側【負債の部】と【資本の部】からは、資産を取得するためにどのように資金調達したかがわかります。

資産の部には、土地、建物、権利、現金預金などの企業の所有財産が記載されています。

固定資産と流動資産の違いは？
→１年のうちに、換金できるものを「流動資産」、換金できないものを「固定資産」に区分しています。
表の右側【負債の部】の固定負債、流動負債も同様に、１年のうちに支払義務があるものを「流動負債」、１年のうちに支払義務が発生しないものを「固定負債」に区分しています。

◎注目ポイント！

①　流動比率（%）

流動比率　＝　流動資産　÷　流動負債　×　100　＝　892.10%

１年以内に支払う必要があるお金（流動負債）に対し、支払うことができるお金（流動資産）がどれだけあるかを示した指標です。指標が高いほど、経営が安定していると言えます。一般的に100%以上が安全水準、200%以上が理想的と言われています。水道事業は、全国及び類似団体平均値よりも高い値となっています。

（参考：R6決算類似団体平均値326.02%　大府市R6決算値1120.98%）

②　有形固定資産減価償却率（%）

有形固定資産減価償却率　＝　有形固定資産減価償却累計額　÷　償却対象の有形固定資産　×　100　＝　45.78%

有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるのかを示した指標です。指標が高いほど、資産の老朽化が進んでいると言えます。水道事業は、計画的に水道施設の更新を行っているため、全国及び類似団体平均値より低い値ですが、増加傾向にあります。

（参考：R6決算類似団体平均値52.02%　大府市R6決算値45.31%）

令和７年度　大府市水道事業貸借対照表

（令和８年３月３１日）

【資産の部】	金額（円）
固定資産	19,218,743,573
有形固定資産	18,718,216,573
土地	729,794,945
建物	796,151,108
構築物	28,626,981,918
機械及び装置	3,579,227,259
車両運搬具	15,807,060
工具、器具及び備品	15,992,569
減価償却累計額	△ 15,122,293,014
建設仮勘定	76,554,728
無形固定資産	527,000
電話加入権	340,700
その他無形固定資産	186,300
投資その他の資産	500,000,000
投資有価証券	500,000,000
流動資産	3,194,650,063
現金預金	2,902,873,456
未収金	286,621,212
貸倒引当金	△ 791,645
貯蔵品	5,947,040
資産合計	22,413,393,636

【負債の部】	金額（円）
固定負債	289,216,956
企業債	289,216,956
流動負債	358,105,833
企業債	62,983,768
未払金	213,311,535
引当金	11,756,000
その他流動負債	70,054,530
繰延収益	7,646,585,753
長期前受金	14,169,075,987
収益化累計額	△ 6,522,490,234
負債合計	8,293,908,542

【資本の部】	金額（円）
資本金	12,996,588,850
剰余金	1,122,896,244
資本剰余金	848,970,592
利益剰余金	273,925,652
資本合計	14,119,485,094
負債資本合計	22,413,393,636

負債の部には、企業債など支払義務があるものが記載されています。

繰延収益は、資産を作る際に収入した国庫補助金など、返す必要のないものです。

資本の部には、資本金や事業で得られた利益などの資金が記載されています。

左半分は「企業の持ち物」
企業の資産・財産がどのような状態で、いくらあるのかがわかります。

右半分は「資産の財源」
企業の資産・財産がどのような財源で、つくられたのかがわかります。

財務諸表の解説③　～キャッシュ・フロー計算書～

キャッシュ・フロー計算書は、企業にどれくらいの現金があるのか、対象年度中の現金の増減とその内容を示す報告書です。

○キャッシュ・フロー計算書からわかること

損益計算書や貸借対照表からは読み取りにくい１年間の現金の流れとその理由を知ることができます。

また、実際の現金の状態が記載されているため、資金繰りの状況や、資金不足の兆候などを予見することができます。

◎注目ポイント！

①　現金を増やすことはできたか？

まず初めに、１年間の経営活動で現金が増えているか、減っているかを確認します。その後、各項目のキャッシュ・フローを見ると、その原因がわかります。

②「業務活動によるキャッシュ・フロー」は、プラスか？

水道事業を続けていくためには、本来の営業活動で得たお金（水道料金）で、水道管等の施設の維持管理・更新をしていかなければなりません。そのためには、「業務活動によるキャッシュ・フロー」がプラスになっていることが大前提になります。

③「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、どれくらいマイナスか？

水道施設の整備・更新には、多くの費用を要します。そのため、施設の整備・更新を行えば、必ずマイナスになりますが、その額の大きさに注目します。

④「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、プラスかマイナスか？

水道事業では、過去に施設の整備・更新費用のためにお金（企業債）を借りました。現在は新たな借入はありませんが、当時の借入額の返済を行っているためマイナスになります。

キャッシュ・フロー計算書の読み方の例

	業務活動	投資活動	財務活動	概　要
パターン①	プラス	マイナス（△）	マイナス（△）	本業の業績は概ね良好であり、有利子負債残高を減少させつつ、建設改良に係る投資も実施しているため、比較的良好な経営状態にあると考えられる。
パターン②	プラス	マイナス（△）	プラス	本業の業績は概ね良好であるが、建設改良に係る投資財源を有利子負債に依存し、かつその残高が増加しているため、今後の返済負担増加が想定される。
パターン③	マイナス（△）	マイナス（△）	プラス	本業の業績が厳しく、建設改良に係る投資財源に加え、日常の運転資金も有利子負債に依存している可能性があるなど、資金繰りが非常にタイトになっていると想定される。

令和７年度　大府市水道事業キャッシュ・フロー計算書

（令和７年４月１日から令和８年３月３１日まで）

（単位：円）

1　業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純利益	205,645,061
減価償却費	648,830,351
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△ 83,826
賞与引当金・法定福利費引当金の増減額（△は減少）	1,708,000
長期前受金戻入額	△ 256,538,676
受取利息及び受取配当金	△ 16,019,863
支払利息	7,691,375
固定資産除却費	11,352,520
未収金の増減額（△は増加）	△ 34,121,017
たな卸資産の増減額（△は減少）	41,040
未払金の増減額（△は増加）	23,902,751
預り金の増減額（△は減少）	8,111,966
小計	600,519,682
利息及び配当金の受取額	16,019,863
利息の支払額	△ 7,691,375
業務活動によるキャッシュ・フロー	608,848,170
2　投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 437,734,997
国県補助金の返還額	△ 451,966
負担金及び分担金による収入	13,825,002
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 424,361,961
3　財務活動によるキャッシュ・フロー	
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 64,859,585
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 64,859,585
資金増加額（又は減少額）	119,626,624
資金期首残高	2,783,246,832
資金期末残高	2,902,873,456

水道事業本来の営業活動で資金を稼げているかを示しています。

施設の整備・更新にどれくらい資金を使ったか、その財源として補助金等の資金をどれくらい収入したかを示していま

企業債の返済による収支を示しています。

１年間の資金の増減額と、年度当初と年度末の資金残高を示しています。



大府市水道事業マスコットキャラクター

「いっとんくん」

大府市水道事業

水道部　水道経営課

〒474-8701

愛知県大府市中央町五丁目 70 番地

ＴＥＬ　0562-45-6238